

MT 15 V2 【サービスノート】

修理の際は、必ず購入されたPRS Official ディーラー経由で当社にご依頼ください。

・TUBES - 真空管

真空管は使用頻度や使用方法によって寿命が異なりますが、消耗品です。真空管はサウンドの要となるパーツであり、正しい使用方法をしていても、長期間使用することで動作不良を起こすことがあります。そのため、不具合が起きた際の対処法を事前に把握しておくことでよいでしょう。

定期的な点検として、真空管のフィラメントがオレンジ色に発光しているか確認してください。オレンジ色以外の発光がある場合、真空管に異常が発生している可能性があります。特に、真空管に過剰な電流が流れると、フィラメントが鮮紅色に発光することがあり、これは内部で異常が起きていることを意味します。

また、以下のようなシチュエーションも考えられます。

1)フィラメントが光っていない。

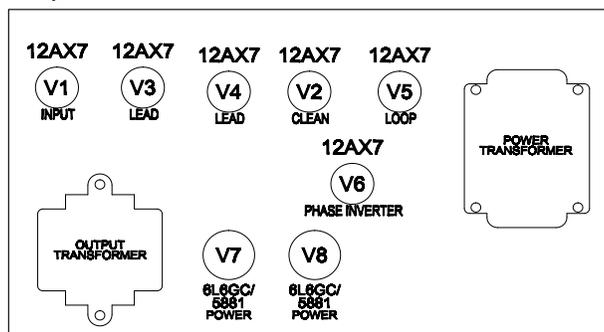
2)真空管内部で小さな火花のような光が見える。

これらの状態は、真空管に深刻な問題があることを示しており、直ぐに使用を中止し、その原因を確認する必要があります。アンプから発するノイズに関しては、その原因が真空管であることが多く、プリ管はスピーカーキャビネットの振動を受けて、ノイズを発振する場合があります。プリ管に関しては、交換後、特に別途調整作業等は必要ありませんが、パワー管の場合は交換後、バイアス調整が必要となります。パワー管交換後、最初に内部が鮮紅色に点灯していないかの確認後、バイアス調整を行ってください。パワー管のバイアスは30mV (±5mV) で行ってください。2本のパワー管のバイアス差が5mVを超える場合、ノイズの発生や本来のサウンドにならない可能性があります。そのため、マッチングされているパワー管を購入・使用することをお勧めします。

⚠ 注意：内部回路やパーツの損傷、アンプ本体の故障につながるため、真空管を抜いた状態では、絶対にアンプの電源を入れしないでください。

⚠ 注意：電源をオフにし、ケーブルを抜いた後でも、コンデンサー内部には電気が滞留している場合がありますので、十分ご注意ください。

INPUT JACK



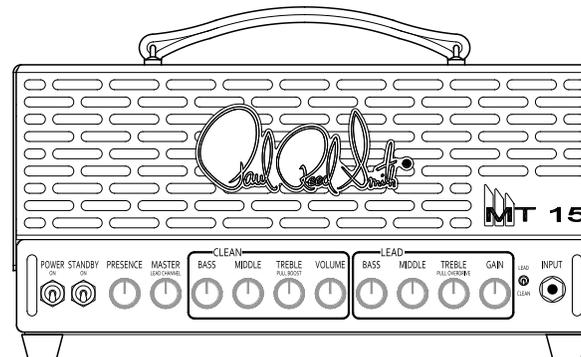
製品に関するお問い合わせ

Paul Reed Smith Guitars カスタマーサービス

support@prsguitars.co.jp

2025年4月作成

MARK TREMONTI MT 15 V2 USER'S MANUAL



PRSアンプの使用について

MT 15 V2をお買い上げいただきありがとうございます。アンプを安全に使用するため、本書をよくお読みください。本書をよくお読みいただくことで、多くの機能を十分にご理解いただきアンプの性能を最大限に引き出すことにつながります。

1. スピーカーキャビネットがヘッド・アンプのスピーカー・アウトと高品質なスピーカー・ケーブルと適切なインピーダンスで接続されていることをご確認ください。楽器用シールド・ケーブルは使用しないでください。
2. 電源ケーブルがアースに繋がっているコンセントに接続されていることをご確認ください。
3. アンプの熱を逃がすため、少なくとも周囲15cm以内には物を置かず、スペースを確保してください。アンプを壁際に設置したり、他の機材と隙間なく設置しないようにしてください。また、他のアンプやストーブといった熱源の近くに設置しないでください。アンプの後ろにはカーテンなど可燃性のものを置かないようにしてください。アンプの放熱を妨げるようなもので覆わないでください。また、ドリンクや液体をアンプ上部に置かないでください。
4. アンプの電源を入れ、20~30秒間、真空管が温まるのを待ちます。その後、スタンバイ・スイッチをオフ（アップ・ポジション）に切り替えることで真空管に高電圧が供給され、このアンプをお使いいただけます。
5. アンプの操作に慣れるまで、アンプをギターまたはペダルのアウトプットジャックと接続する際は、必ずボリュームとマスターコントロールを0にし、接続完了後に電源を入れてください。また、突然大きな音量が出ることを避けるために、ボリュームが0の状態から少しずつ上げて調整してください。



本製品は大音量での演奏が可能ですが、長時間の演奏は聴覚に影響を与える可能性がありますので、ご使用はあくまでご自身の責任の範囲内で行ってください。また、本製品に異常を感じた場合は、直ちに使用を中止し、購入されたPRS Official ディーラーへご相談ください。PRS Official ディーラー以外で修理や改造が行われた場合、今後のサービスの対象外となりますので、予めご了承ください。本製品を使用する際は、必ず100Vの電源をご使用ください。

MT 15 V2 フロントパネルコントロール

・INPUT - インプット

モノラル仕様のギター・ケーブルを使用して接続してください。

・CHANNEL SELECT - チャンネル セレクト

LEAD（リード）チャンネルとCLEAN（クリーン）チャンネルを選択する時にこのスイッチを使用します。

LEAD CHANNEL - リード チャンネル

・GAIN CONTROL - ゲイン コントロール

プリアンプのボリューム・歪み・サチュレーションをこのノブで調節します。

・BRIGHT SWITCH - ブライト スイッチ

オンにするとTREBLEよりもさらに高音域がブーストされます。

・TREBLE CONTROL WITH PULL OVERDRIVE - オーバードライブ機能付きトレブル・コントロール
全体のトーンに対する高音域を調整します。低く設定した場合は、よりウォームなトーンに、そして高く設定した場合は、よりブライトなトーンになります。また、このノブを引くことでオーバードライブの回路が切り替わり、ミドル・ゲインのクランチ・サウンドになります。この時、LEDインジケータはオレンジ色に点灯します。

・MIDDLE CONTROL - ミドル コントロール

中音域のトーンをこのノブで調節します。低めに設定すると高音域と低音域が強調されたサウンドになり、高めに設定するとファットなサウンドになります。

・BASS CONTROL - ベース コントロール

低音域のトーンをこのノブで調節します。低めに設定すると高音域と低音域がタイトなサウンドになり、特に高いゲイン設定時に効果的です。高めに設定すると重心が低く、深みのあるサウンドになります。

・LEAD CHANNEL MASTER - リード チャンネル マスター

LEAD（リード）チャンネル全体の音量をこのノブで調節します。GAIN CONTROL（ゲイン コントロール）と併せて使用することで、LEAD（リード）チャンネルとCLEAN（クリーン）チャンネルの音量バランスを整えることができます。

CLEAN CHANNEL - クリーン チャンネル

・VOLUME CONTROL - ボリューム コントロール

CLEAN（クリーン）チャンネルのゲインをこのノブで調節します。

・TREBLE CONTROL WITH PULL BOOST - ブースト機能付きトレブル・コントロール

リード・チャンネル同様に高音域を調整します。ノブを引くことで、クリーン・チャンネルの全帯域に対してゲイン・ブーストが加わります。

・MIDDLE, and BASS CONTROLS - ミドル ベース コントロール

LEAD（リード）チャンネルの各ノブをご参照ください。

・PRESENCE CONTROL - プレセンス コントロール

TREBLEよりも高い音域をこのノブで調節します。このノブは両チャンネル（LEAD・CLEAN）共通となります。

・DEPTH CONTROL - デプス コントロール

BASSよりも低い音域をこのノブで調節します。このノブは両チャンネル（LEAD・CLEAN）共通となります。

・POWER ON / OFF AND STANDBY SWITCH - パワー オン / オフ・スタンバイ・スイッチ

MT 15 V2には、真空管に高電圧を供給する前に適切な動作温度まで温めるためのスタンバイ・スイッチが搭載されています。

最初にアンプの電源をオンにし、20～30秒間、真空管が温まるのを待ってから、スタンバイ・スイッチをオフにすることでこのアンプをお使いいただけます。

MT 15 V2 リアパネルコントロール

・POWER INLET SOCKET - パワー インレット ソケット

本製品を使用する際は、必ず付属の電源コードをご使用ください。また、本製品を置く場所を移動する際、必ず電源ケーブルと、他に接続されている機器（ギターやエフェクターなど）を全て外してから行ってください。

・FUSES - ヒューズ

本製品には、リアパネル上から直ぐにアクセスできるヒューズと、プリント基板上に搭載されているヒューズがあります。ヒューズの交換を行う時は、必ずヒューズ本体に記載されている仕様と同じものを用意してください。異なるヒューズを使用した場合、製品に致命的な損傷が生じ、思わぬ事故につながる可能性があります。また、ヒューズを交換する際、必ず電源ケーブルと、他に接続されている機器（ギターやエフェクターなど）を全て外してから行ってください。

・MAINS / POWER INLET FUSES - メイン ヒューズ

メインヒューズ用のトレイは、主電源用のソケットモジュール内に組み込まれています。なお、ソケットトレイには、2つのヒューズをセッティングことができ、ひとつはスペア用となります。ヒューズのタイプやスペックは、使用する国や地域によって異なりますので、詳しくは主電源用ソケットモジュール下に記載されている内容をご確認ください。

・B+ FUSES AND FILAMENT FUSES - B+ ヒューズ フィラメント ヒューズ

これらのヒューズはプリント基板上にあるため、交換の際は、必ず購入された販売店へご相談ください。

・EFFECT LOOP - エフェクト ループ

本製品にはシリーズ（直列）接続のエフェクトループが搭載されています。SENDジャックをエフェクターのINPUTと接続し、エフェクターのOUTPUTをRETURNジャックに接続してください。また、ケーブルが拾うハムノイズを最小限に抑えるため、エフェクトループに使用するケーブルはある程度の長さがあるものを使用し、エフェクター本体をパワートランスや電源ケーブルからは距離を取ってご使用ください。

・HALF POWER SWITCH - ハーフ パワー・スイッチ

ハーフ・パワー（ダウン・ポジション）をセレクトした場合、出力が約半分になります。このスイッチを切り替える際は、アンプの電源をオフにするか、電源を入れる前に行ってください。

・BIAS JACK AND POT - バイアス ジャック ポット

パワー管の消費電流をミリボルト単位で測定する端子です。1mVと測定された場合、そのパワー管には1mAの電流が流れていることとなります。真空管の交換については、本書「TUBES - 真空管」の項目をご参照ください。なお、バイアスノブで調節と真空管の交換に関しては、ご自身で行った場合、思わぬトラブルにつながる可能性がありますので、必ず購入された販売店へご相談ください。

・SPEAKER JACKS - スピーカー ジャック

スピーカーキャビネットと接続する際に使用します。8Ω(オーム)の平行接続×2、16Ω(オーム)×1の計3つとなります。ご使用前に、本製品および接続するキャビネットの入力値とインピーダンス(Ω)を必ずご確認の上、適切なものをご使用ください。異なるインピーダンスのジャックを同時に組み合わせ（16Ωのジャックと8Ωのジャック）で使用することは絶対におやめください。また、インピーダンスの異なるスピーカーを2台同時に使用することもおやめください。例えば、16Ωのスピーカーを2台平行（並行）接続する際は8Ωのジャック2つにそれぞれ接続してください。正しいインピーダンスで接続されなかった場合、チューブソケットやパワー管の破損、及びアンプ本体の故障に繋がる可能性がありますので、正しい接続方法でご使用ください。

・FOOTSWITCH JACK - フットスイッチ ジャック

付属のフットスイッチ（FS1M）を接続する際に使用します。フットスイッチを使用することにより、チャンネルの切り替えが足元で行えるようになります。アンプの故障に繋がる恐れがあるため、付属のフットスイッチ以外は絶対に使用しないでください。また、フットスイッチが接続された場合、フロントパネル上のチャンネルセクタースイッチは無効になります。